

# 令和6年度学校評価報告書

令和7年3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道釧路明輝高等学校長 様

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- (1) 「地域創生」地域連携を推進し、地域課題解決に向けた探究活動を実践することで、地域に誇りを抱き、地域の将来を支える人材を育成する。  
 (2) 「自己実現」都市型総合学科高校の特性を生かし、多様な科目設定と系統的なキャリア教育により、生徒の多様な進路希望の実現に応える。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

| 評価項目               | 自己評価の結果  | 学校関係者評価の結果   |
|--------------------|--|--|
| 学校運営               | <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の現状や課題、今後の展望について広く意見を聴取する機会を創出する。</li> <li>働き方改革の観点からも分掌や年次業務、学校行事等の精選を図るとともに校務DXを推進する。</li> <li>総合学科の特色を生かした魅力ある学校づくりを推進するため、スクール・ミッション、スクールポリシーを意識し、全教職員、保護者や生徒、地域で共有する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科としての役割や教育活動について、地域の理解が深まっている様子である。</li> <li>外部機関や地域との関わりから生徒の校外での活動が多く見られるようになった。</li> <li>160名募集定員に変わり2年目を迎え、推薦選抜の倍率は高かったが、一般入学者選抜においてもより高い目的意識を持った生徒が多く入学することを期待するとともに、学校の教育活動の充実を目指してほしい。</li> </ul> |
| 改善方策               | <ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心に応じた教科・選択科目の配列を活かし、質の高い教科指導と探究活動を通して、進路実現につなげるカリキュラム・マネジメントの実施に努める。</li> <li>自己推薦で入学した生徒を中心に、意欲的な学習集団が形成されるよう指導の充実にも努める。</li> </ul>   |  |
| 学習指導               | <ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動における表現力は年々向上していると感じる。今後は、課題設定や調査研究等、プロセスも意識した内容の充実を重要視する。</li> <li>教科指導と評価の在り方について、校内研修を開催し、共通認識を図ることが必要である。</li> <li>開設科目の見直し。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表会等での成果とともに探究学習の過程において生徒自身がどのような自己成長を感じ取っているか認識させる必要があると感じる。</li> <li>教員側の苦労もあるが、多様な進路選択に向けて、本校の特色ある系列を活かし、学びを進路実現につなげる教育に尽力いただきたい。</li> </ul>   |
| 改善方策               | <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間の活動を基本とし、各教科においても横断的な学習を取り入れている場面や内容が多く見られる。研修機会を設け、より充実した探究活動を目指す。</li> <li>生徒の実態や多様な進路希望を踏まえ、教育課程委員会において開設科目の見直しも進めた。今後も間口減、教員数減を見通した適切な教育課程の編成に努める。</li> </ul>              |  |
| 生徒指導<br>(いじめ問題を含む) | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対策や教育相談に係る組織的対応を行うとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携した活動が見られる。</li> <li>生徒指導規定について、生徒の実態や時流に合わせた内容に検討、改訂して教員間での共通認識を図っていく必要がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に生徒指導や教育相談をきめ細かく展開されていると思うが、教職員の多忙感が心配である。保護者への周知等を工夫して、生徒指導や教育相談での教員の取組が伝わるようにすると、評価も変わってくるのではないかと。</li> </ul>  |
| 改善方策               | <ul style="list-style-type: none"> <li>服装やアルバイト規定に関する見直しを行った。生徒や家庭の実態、時流に合わせた内容に直していくことが今後も必要である。</li> <li>いじめ対策や自殺予防等の取組をアンケートや教育相談、スクールカウンセラーの活用を図りながら、今まで以上に組織的な対応を構築するとともに、保護者への理解促進を図っていく。</li> </ul>                     |  |
| 進路指導<br>・キャリア教育    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」を統合的に実施する中で、キャリア教育分野と探究学習活動計画を明確に配置していく。</li> <li>キャリア教育部が中心となり、進路に関する校内規定の見直しを推進することができた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力として、高等学校における探究活動の充実が必要不可欠である。積極的に取り組んでほしい。</li> <li>多様な進路実現は本校が応えていくべき使命であり生徒個々への指導助言に尽力いただきたい。</li> <li>外部機関との連携、高大接続等を活用し、より充実した探究活動を目指してほしい。</li> </ul>   |
| 改善方策               | <ul style="list-style-type: none"> <li>理科や家庭科、地歴公民科での課題研究として取組や発表等の成果が年々向上している。</li> <li>キャリア教育部に副部長を3名（SC担当：就職担当：進学担当）とし、各年次にSCの担当教員をそれぞれ配置し、副部長を中心とした系統的なSCの推進体制を一層充実したものにしていく。</li> </ul>                                   |  |

## 3 添付資料

(1) 令和6年度 学校評価の結果